

# なかつがわ全市景気ウォッチャー調査

〈市内の景気の動向を接客や取引を通じて肌で感じている人たちによる客観的な景況感調査〉

## 平成21年12月調査結果

現在の景気の現状判断は、D I 値 23.8% となり、先月に比べ 1.7% 改善しましたが、依然、非常に厳しい状況が続く現状判断となっています。特に、家計動向関連のサービス関連で 7.1% 悪化の 17.9% と非常に厳しい状況が進んでいます。

また、雇用関連では 14.3% 改善の 32.2% と非常に厳しい状況を脱した現状判断となっています。

次に1年前と比べた場合の景気の現状判断は、D I 値 25.0% と 1.8% の小幅な悪化に留まっていますが、特にサービス関連で 7.1% 悪化し、ここでも非常に厳しい状況が進む現状判断となっています。

また、3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断では、先月とほぼ同じ 35.6% で、サービス関連で 13.9% 改善したものの、小売関連が 4.2%、飲食観光関連が 5.0% 下げたため、厳しい状況が続く現状判断となっています。

さらに3～6ヶ月前の景気の先行き判断は、初めて 3.4% 改善を見込み 34.4% になり、特にサービス関連で 20.1% の大幅な改善が見込まれる結果となりました。

◎全体的には、消費の低迷、低価格志向に加え、観光がオフシーズンに入ったことや年末であることなどから乱高下しており、以後の調査を待つ必要があるものと思われます。また、雇用関連は厳しい状況ながら一定の落ち着きが出てきていると思われますが、新卒者の就職状況については、さらに注視していく必要があると思われます。

平成22年1月15日

なかつがわ全市緊急経済対策本部

# 調査の概要

## ○調査の目的

市内の景気の動向に関連のある人々の協力を得て、市内の景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とする。

## ○調査の対象

- 1 対象地域 市内全域
- 2 調査客体  
家計動向、雇用等の代表的な経済活動に携わる、さまざまな業種の方々、45名

## ○調査事項

- 1 景気の現状に対する判断（方向性）
- 2 1の理由
- 3 2の追加説明及び具体的状況の説明
- 4 景気の先行きに対する判断（方向性）
- 5 4の理由

## ○調査の時期

調査は毎月、当月時点で、調査期間は毎月25日から月末まで(今回は1月7日まで)

## ○有効回答率

88.9% 有効回答客体 40名

## ○判断方法

日本銀行で発表している「主要(全国)企業短期経済観測調査」いわゆる「日銀短観」や内閣府で発表している「景気動向指数」に使われている経済指数をディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)略して「D I」といいます。

「D I」には、「日銀短観」で使われる単純に3つの選択肢、たとえば「良い」、「変わらない」、「悪い」を用意し、回答から%を求め「良い」の%から「悪い」の%を引いた指数(%ポイント)が0を境に0以上になれば景気回復、0以下になれば景気後退を示す方法と「景気動向指数」のように3つ以上の選択肢を用意し、その選択肢に均等に0~1の評価点を与え、それぞれの回答から%を求めそれぞれの評価点を乗じたものの合計を指数(%ポイント)として50を境に50以上になれば景気回復、50以下になれば景気後退を示す方法の二つが主に使われています。

前者に比べ後者の方が選択肢が幅広くなり、より正確な指数を得ることができます。

今回の調査は、選択肢を5つ用意していますので、「景気動向指数」と同じ後者の方法で判断するものとします。

### 1 D I 値の算出方法

5段階の判断にそれぞれ以下の点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じて、D I 値を算出する。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価点	1	0.75	0.5	0.25	0

## 2 DI値について

DI値が50の場合は横ばいを示し、0に近づくほど景気後退傾向、逆に100に近づくほど景気回復傾向であることを示す。

100 ←                      50                      →                      0  
 良くなっている                      変わらない                      悪くなっている

例えば

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
調査結果	8	9	9	10	9
構成比(%)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4                      ⇒                      ほんの少し景気が後退している				

となります。

## 調査の結果

### 1 現在の景気の現状判断

現在の景気の現状としてD I値が23.8%と、先月より1.7%回復しましたが、依然、非常に厳しい現状判断となっています。

内訳では、家計動向関連で小売関連が3.5%戻して13.5%と極めて厳しい状況から脱する兆しが見えたものの、サービス関連では7.1%悪化の17.9%と非常に厳しい状況が進み、飲食観光関連でも、観光のオフシーズンに入ったことから4.8%悪化する現状判断となっています。

また、雇用関連では、14.3%と大幅に改善し、32.2%と非常に厳しい状況を脱した現状判断となっています。

表1 12月構成比

	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
合計	0.0	2.5	22.5	37.5	35.0	2.5	23.8
家計動向関連	0.0	3.0	18.2	42.4	36.3	0.0	22.0
小売関連	0.0	0.0	15.4	23.1	61.5	0.0	13.5
飲食観光関連	0.0	7.7	23.1	61.5	7.6	0.0	32.7
サービス関連	0.0	0.0	14.3	42.9	42.9	0.0	17.9
雇用関連	0.0	0.0	42.9	14.3	28.5	14.3	32.2

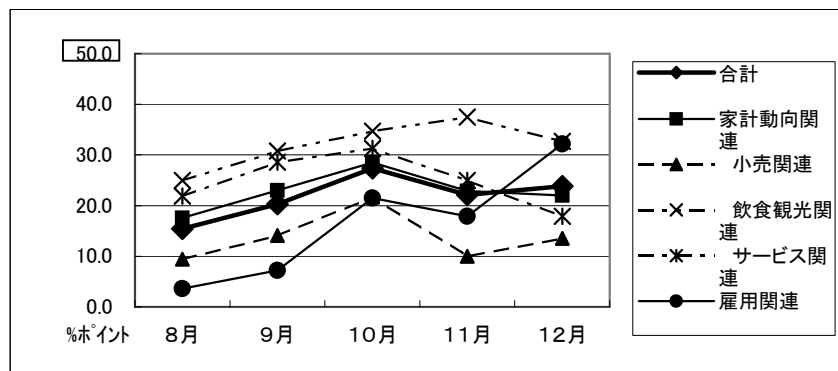
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
2009	8	0.0	2.3	11.3	27.3	56.8	2.3	15.4
	9	2.3	4.7	6.9	44.2	41.9	0.0	20.3
	10	0.0	7.0	27.9	32.6	32.5	0.0	27.4
	11	2.4	11.9	2.4	38.1	45.2	0.0	22.1
	12	0.0	2.5	22.5	37.5	35.0	2.5	23.8
	(前月差)	(-2.4)	(-9.4)	( 20.1)	(-0.6)	(-10.2)	( 2.5)	( 1.7)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年					
	8月	9月	10月	11月	12月	(前月差)
合計	15.4	20.3	27.4	22.1	23.8	( 1.7)
家計動向関連	17.6	23.0	28.5	22.9	22.0	(-0.9)
小売関連	9.4	14.1	21.7	10.0	13.5	( 3.5)
飲食観光関連	25.0	30.8	34.7	37.5	32.7	(-4.8)
サービス関連	21.9	28.6	31.3	25.0	17.9	(-7.1)
雇用関連	3.6	7.2	21.5	17.9	32.2	( 14.3)



## 2-1 1年前と比べた場合の景気の現状判断

1年前と比べた場合は、先月と比べ1.8%が悪化して25.0%と、非常に厳しい状況になりつつある現状判断となっています。

内訳では、「現在の景気の現状判断」と同じくサービス関連で7.1%が悪化の17.9%と非常に厳しい状況となり、飲食観光関係も6.7%が悪化し、逆に小幅ながら小売関連で1.4%が改善する結果となりました。

また、雇用関連3.6%が改善の25.0%と非常に厳しい状況を脱する兆しが見える現状判断となっています。

表1 12月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	0.0	2.5	25.0	42.5	30.0	0.0	25.0
家計動向関連	0.0	3.0	24.2	42.4	30.3	0.0	25.0
小売関連	0.0	0.0	30.8	30.8	38.5	0.0	23.1
飲食観光関連	0.0	7.7	23.1	53.8	15.4	0.0	30.8
サービス関連	0.0	0.0	14.3	42.9	42.9	0.0	17.9
雇用関連	0.0	0.0	28.6	42.9	28.6	0.0	25.0

※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

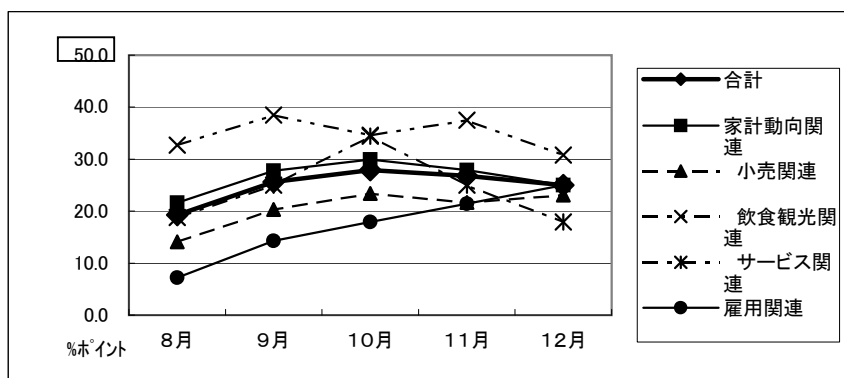
表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2009	8	0.0	9.1	13.6	22.7	54.6	0.0	19.3
	9	4.7	2.3	20.9	34.9	37.2	0.0	25.6
	10	0.0	7.0	27.9	34.9	30.2	0.0	27.9
	11	4.8	2.4	19.0	42.9	30.9	0.0	26.8
	12	0.0	2.5	25.0	42.5	30.0	0.0	25.0
	(前月差)	(-4.8)	(0.1)	(6.0)	(-0.4)	(-0.9)	(0.0)	(-1.8)

表3 景気の現状判断D I 値

2009年

	8月	9月	10月	11月	12月	(前月差)
合計	19.3	25.6	27.9	26.8	25.0	(-1.8)
家計動向関連	21.6	27.8	29.9	27.9	25.0	(-2.9)
小売関連	14.1	20.3	23.4	21.7	23.1	(1.4)
飲食観光関連	32.7	38.5	34.6	37.5	30.8	(-6.7)
サービス関連	18.8	25.0	34.4	25.0	17.9	(-7.1)
雇用関連	7.2	14.3	17.9	21.4	25.0	(3.6)



## 2-2-1 3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断

3ヶ月前と比べた場合は、先月とほぼ同じで0.1%ポイント悪化の35.6%ポイントと厳しい状況が続く現状判断となっています。

原因としては、サービス関連で13.9%ポイントと大幅な改善の35.8%ポイントと非常に厳しい状況を脱したものの、小売関連で消費の低迷の影響で4.2%ポイント下げ、飲食観光関連も観光がオフシーズンに入ったことで5.0%ポイント下げたためと思われます。

また、雇用関連は、先月と同じく46.4%ポイントとやや厳しい状況が続く結果となっています。

表1 12月構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	DI値
合計	0.0	15.0	35.0	27.5	22.5	0.0	35.6
家計動向関連	0.0	15.2	27.3	33.3	24.2	0.0	33.4
小売関連	0.0	7.7	38.5	23.1	30.7	0.0	30.8
飲食観光関連	0.0	23.1	15.4	38.4	23.1	0.0	34.6
サービス関連	0.0	14.3	28.6	42.9	14.3	0.0	35.8
雇用関連	0.0	14.3	71.4	0.0	14.3	0.0	46.4

※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてDI値を計算

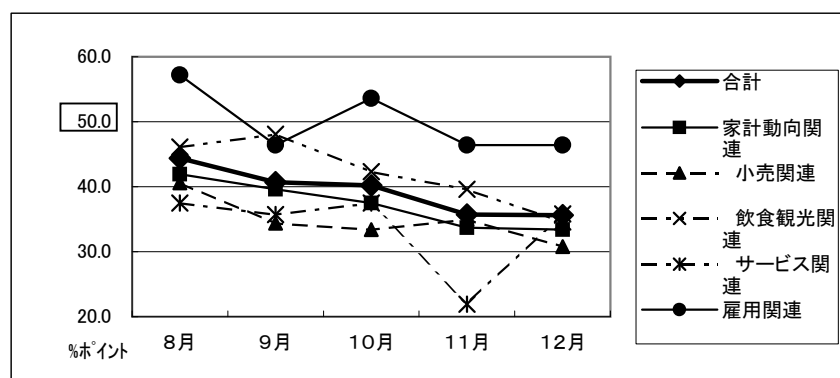
表2 毎月の構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	DI値
2009	8	0.0	20.5	47.7	20.5	11.3	0.0	44.4
	9	2.3	11.6	48.9	20.9	16.3	0.0	40.7
	10	2.4	9.3	46.5	30.2	11.6	0.0	40.2
	11	2.4	9.5	33.3	38.1	16.7	0.0	35.7
	12	0.0	15.0	35.0	27.5	22.5	0.0	35.6
	(前月差)	(-2.4)	(-5.5)	(-1.7)	(-10.6)	(-5.8)	(0.0)	(-0.1)

表3 景気の現状判断DI値

2009年

	8月	9月	10月	11月	12月	(前月差)
合計	44.4	40.7	40.2	35.7	35.6	(-0.1)
家計動向関連	41.9	39.6	37.5	33.7	33.4	(-0.3)
小売関連	40.6	34.4	33.4	35.0	30.8	(-4.2)
飲食観光関連	46.1	48.1	42.3	39.6	34.6	(-5.0)
サービス関連	37.5	35.7	37.5	21.9	35.8	(13.9)
雇用関連	57.2	46.4	53.6	46.4	46.4	(0.0)



## 2-2-2 3ヶ月前と比べた場合の景気の判断理由

判断の理由として家計動向関連の小売関連では、来客数の減少とそれに伴う販売量の減少が起因して「来客数の動き」・「販売量の動き」が共に38.5%、さらに、安いものしか買わない状況から「単価の動き」が同じく38.5%と高くとなっています。

飲食観光関連では、来客数の減少から「来客数の動き」が84.6%と先月と同じく、突出して大きくなっています。

サービス業関連では、来店者の行動から「お客様の様子」が57.1%と大きくなっています。

次に、雇用関連では、企業の景気状況などから「周辺企業の様子」が85.7%と突出して高くなっています。

	①来客数の動き	②販売量の動き	③単価の動き	④お客様の様子	⑤競争相手の様子	⑥それ以外
家計動向関連	54.5	33.3	24.2	30.3	3.0	0.0
小売関連	38.5	38.5	38.5	30.8	7.7	0.0
飲食観光関連	84.6	38.5	23.1	15.4	0.0	0.0
サービス関連	28.6	14.3	0.0	57.1	0.0	0.0

	①求人数の動き	②求職者数の動き	③採用者数の動き	④雇用形態の様子	⑤周辺企業の様子	⑥それ以外
雇用関連	57.1	42.9	14.3	0.0	85.7	0.0

※複数回答による割合

### 3 3～6ヶ月先の景気の先行き判断

景気の先行きについては、8月の調査開始から下げ続けていたものが、小幅ながら3.4%ポイントと上げ34.4%ポイントと改善を見込む予想となっています。

特にサービス関連では、20.1%ポイントの急激な戻しが見込まれ、35.7%ポイントと非常に厳しい状況を脱する予想となっています。さらに、小売関連で4.9%ポイントの改善を見込んでいますが、飲食観光関連で、観光がオフシーズンのため6.5%ポイントの下げを見込む結果となりました。

また、雇用関連では、先月と同じく42.9%ポイントとやや厳しい状況が予想されています。

表1 12月構成比

	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
合計	0.0	7.5	37.5	35.0	17.5	2.5	34.4
家計動向関連	0.0	6.1	36.4	33.3	21.2	3.0	32.6
小売関連	0.0	7.7	38.5	30.8	15.4	7.7	36.6
飲食観光関連	0.0	0.0	30.8	46.1	23.1	0.0	26.9
サービス関連	0.0	14.3	42.8	14.3	28.6	0.0	35.7
雇用関連	0.0	14.3	42.9	42.9	0.0	0.0	42.9

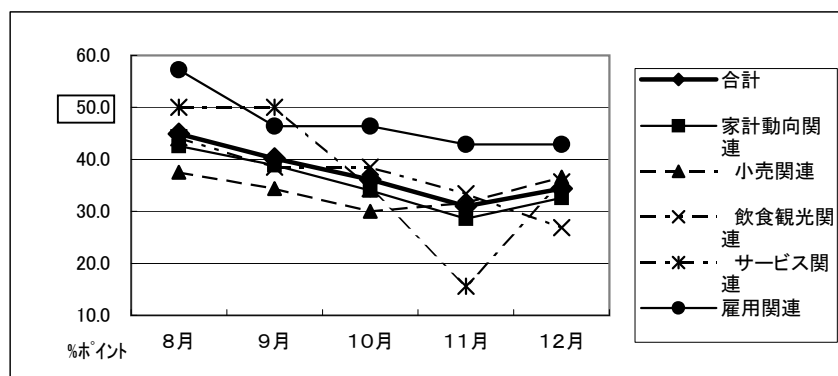
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
2009	8	2.3	18.2	47.7	15.9	13.6	2.3	44.9
	9	0.0	14.0	41.9	34.8	9.3	0.0	40.2
	10	0.0	7.0	46.5	30.2	16.3	0.0	36.1
	11	0.0	7.1	31.0	35.7	23.8	2.4	31.0
	12	0.0	7.5	37.5	35.0	17.5	2.5	34.4
	(前月差)	(0.0)	(0.4)	(6.5)	(-0.7)	(-6.3)	(0.1)	(3.4)

表3 景気の先行き判断D I 値

	2009年					
	8月	9月	10月	11月	12月	(前月差)
合計	44.9	40.2	36.1	31.0	34.4	(3.4)
家計動向関連	42.6	38.9	34.0	28.6	32.6	(4.0)
小売関連	37.5	34.4	30.0	31.7	36.6	(4.9)
飲食観光関連	44.2	38.5	38.5	33.4	26.9	(-6.5)
サービス関連	50.0	50.0	34.4	15.6	35.7	(20.1)
雇用関連	57.2	46.4	46.4	42.9	42.9	(0.0)



景気の現状判断の理由

分野	景気判断		調査対象	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
	3ヶ月前	1年前				
	やや良くなっている	やや良くなっている	旅館	来客数の動き	・昨年が最悪であった事、各企業賞与が出た様で、飲食業は客の動きがある様だ。	
			変わらない	家電販売店	販売量、単価の動きと競争相手	・年末によるテレビの購入の前年アップ率。
				スナック	来客数の動き	・景気が悪いので、当店のよう料金安い事（10年間変わらない）、年金者若い人が、ストレス発散に歌を歌いに来店して下さる。
				居酒屋	来客数と単価の動き	—
	やや悪くなっている	やや悪くなっている	IT関連会社	販売量の動き	・1年前よりは、実績は少ないが、3ヶ月前よりは少し上向いて来た感はあるが、油断できない。地域以外のライバルが増えている。	
			変わらない	変わらない	小売店	来客数の動き
	スーパー	単価の動き			・客単価が下がっている。	
	自動車販売	来客数の動きとお客様の様子			・来店客数、少ない。 ・安くしないと売れない。	
	レストラン	来客数の動き			・当月も天候に恵まれ、12月前半の来客数が昨年以上に推移しましたが、中旬の降雪により客足が鈍り、結果ほぼ昨年と同じ状況でした。厳しい中でも比較的順調に推移しているように思います。	
	金融機関	お客様の様子			・景気低迷の影響から新築物件の購入、建設の需要が弱く、建設業等の住宅関連産業は厳しい状況が今後も続くが、小口の住宅リホームの需要は潜在的にあり、細かな営業により受注の確保を図っている。	
やや悪くなっている	やや悪くなっている	小売店			単価の動き	・クリスマスギフトの予算がさがっている。
		スーパー			来客数の動き	・店内にいるお客様の人数が少なくなったと感じる事が増えた。
		ホテル			来客数の動き	・新規客数の減少。
		タクシー運転手	お客様の様子	・町の活気がない。町にあまり人がいない。駅にいても、電車からの乗降客が少ない。		
やや悪くなっている	やや悪くなっている	小売店	来客数と販売量の動き	・平日の来客数の減少が見られ、販売量に影響が感じられる。		
		道の駅	来客数と販売量の動き	・お歳暮も少し少なくなり、買い控えがみられます。		
		飲食店	来客数の動きとお客様の様子	・40～50才のお客様の減少と会社の経費削減の影響。		
		レストラン	単価の動き	・客数は前年並みであるが売上が減少。客単価が減少している。 ・若年層の動きは活発であるが、高齢者の動きは鈍い。		
		旅行代理店	来客数と販売量の動き	・昨年にくらべツアーの本数も減っている気がします。		
		金融機関	お客様の様子	・ボーナス金額の低下、個人貯金の伸びがない。貯金の切りくずしが、見受けられる。		
	悪くなっている	悪くなっている	小売店	単価の動き	—	

	悪く なっている	小売店	お客様の様子	・年末商材で例年の様な高級品が売れない。質・量共に低下している。
		旅館	来客数の動きとお客様の様子	・ゆっくりとお部屋を予約して食事をするのが、単品のみの食事を好み、お金を使うのが少なくなっている。団体も何かサービス付でないと言うのが多くなっている。
		理容室	来客数の動き	・来店回数が少しずつ伸びて、回数も減っている。
		福祉施設	お客様の様子	・景気が悪いため、ボーナスが出ない所もあったと聞きました。そのためか、年末でも買い物の量が少なかったように思いました。
悪く なっている	やや悪く なっている	商店街関係者	販売量の動き	・クレジット等の売上単価が下がった。但し家電に限り好調と思われる。(エコポイントの効果)
		道の駅	販売量の動き	・正月用メ飾り等を例にとると、安価なものを求める。年末のイベント(主張)でも、この傾向は顕著でした。
		観光案内所	来客数と販売量の動き	・栗きんとんの販売量の減少。 ・来館者数の減少。
	悪く なっている	商店街関係者	販売量の動きとお客様の様子	・問屋さん等も11月も悪かったけれど、12月はさらに悪い、販売数の減少。
		商店街関係者	お客様の様子	・なかなか新しい物を買わない。(修理に余りお金がかかるなら家にまだあるものを使おうとする。)
		小売店	来客数、販売量と単価の動き	—
		レストラン	来客数、販売量と単価の動き	・客単価と来客数の低下が見られる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・競争相手も以前より悪い状態になっていると話している。
雇 用 関 連	やや良くなっている	自治体労働政策担当	求人数、求職者数と採用者数の動き	・有効求人倍率の推移 H20. 11月 1.32 H21. 9月 0.59 H21. 11月 0.71
	変わらない	学校就職担当	周辺企業の様子	・景気が良くなっている、向上しているという返事が返ってこない。ここ1年で人員削減を行ってきたので、今の操業が景気の向上であるという認識がない。
		人材派遣会社	求人数、求職者数と周辺企業の様子	・先行き不明、昨年末派遣切りによる失職が、今日、長引く不況で今後正社員の失業が懸念される。…当地域の求人動向は、サービス・製造・事務等々、ここにきて大半がパート・アルバイト求人。
		職業安定所	求人数、求職者数と周辺企業の様子	・新規求職者は減少の傾向にあり、12月は昨年5月以来の前年同月比マイナスになると思われる。求人も12月という时期的な要因があるものの前月比で減少している。
		労働金庫	周辺企業の様子	・企業に元気がない、活気がない、新しい事業や企画に取り組む企業が少なく、地方経済が疲弊し活力を感じることがない。
		労働相談所	周辺企業の様子	・12/初、製造業20社巡回調査を行なった。昨年の10月に比し、 仕事業 (1) 70~80%、16社 (2) 90~100%、3社 (3) 100%以上、1社。
	悪く なっている	悪く なっている	学校就職担当	求人数の動きと周辺企業の様子

景気の先行き判断の理由

分野	景気の判断	調査対象	追加説明及び具体的状況の説明
家 計 動 向 関 連	やや良くなる	小売店	・今が最低だと思いたいから。
		福祉施設	・国の景気対策や中国の経済も良いし、アメリカも徐々に良くなってくると思います。
	変わらない	小売店	・景気上昇に関するものが、見えてこない、感じられない。
		小売店	・デフレの影響で賃金が下がり、各家庭で食費に回るお金が限られていると思われる。
		スーパー	・景気が良くなる気配がない。（ニュースなどを見ても。）
		スーパー	－
		自動車販売	・販売台数、売上高とも昨年比ダウンしている。
		道の駅	・自主努力でなんとか集客して、やっと維持できるかどうかと言うところです。
		レストラン	・経済、市場の状況から、しばらくこの状態が続くと思われる。大きな伸びは見込めない。
		スナック	・年間通すと大くの差は、ないようです。お客様をあきさせないサービスに心掛けています。
		ホテル	－
		金融機関	・政府の景気対策の効果に今しばらくの時間がかかる見込みをもってしている事業者が多い。
		I T 関連会社	・先の事は全く予想出来ない。
		タクシー運転手	・町がこのままだと変わらないと思います。町に活気があふれる何かがないといけないのではと思います。
		やや悪くなる	小売店
	小売店		・消費。
	小売店		－
	家電販売店		・年末、年始の需要がなくなるのと、テレビの買替えがさらに増す要因がない。
	道の駅		－
	飲食店		・先行きの不透明感があるのでは。
レストラン	・これから閑散期に入り、また外的な要因を受けやすい業種なので良くなる要因が見つからない。		
居酒屋	－		
旅館	・年が明け各組合等の新年会には期待するが、個人での飲食は期待減。観光事業については、案内所の充実、パンフレットの作成などを希望。		
観光案内所	・冬期に入り来館者（観光客）の減少。 ・プチ栗きんとんのような人気商品が無い。		
金融機関	・景気が上向きになる要素がない。取引先は、減収減益となっている様子、今後悪くなるような気配。		

悪くなる	商店街関係者	・政府の金融政策、将来のビジョンが見えない。	
	商店街関係者	・購買意欲がない。	
	レストラン	－	
	旅館	・サービス業なので、あつてよしなくてよしなので、冬は足場も悪くなると外出が少なくなる。春になればコンビニでの買い物で（自分で持って）とか）外の遊びになり、食事を楽しむのが少なくなる。	
	旅行代理店	・売り上げも減っているの、今後あまり変化もないように思います。	
	理容室	－	
	タクシー運転手	・年末の忘年会のお客もたいへん少ない様に思う。	
－	商店街関係者	・マスコミの影響が大きい、デフレ傾向が続くと思われ良くなると考えにくい。	
雇用関連	やや良くなる	自治体労働政策担当	・企業の求人数が増加しており、雇用状況は今後も改善が見込まれる。
	変わらない	職業安定所	・求人倍率は改善の傾向を見せているが、期間限定の求人も多く、本格的な好転とは言えない。
		労働金庫	・好転する材料が見当たらない。
		学校就職担当	・3月までの見通しはついているが、それ以後の見通しが不透明であると言われる。来年度の採用計画も4月以降でないと言えないと多くの企業担当者が言われる。
	やや悪くなる	学校就職担当	・経済状況や対策を考えると、よくなる要因がまったく見られない。
		人材派遣会社	・各企業が新規採用に慎重なことから、当地域でも雇用の回復は遅れると思われる。
労働相談所		・年末のボーナス支給が中小企業で「出ない、又は寸志」が約50%である。これでは景気が良くなるはずがない。	